



このたび本誌面をお借りして、吉祥寺病院の紹介をさせていただく機会を頂き、心より感謝申し上げます。

吉祥寺病院は昭和29年9月に開設され、JR三鷹駅と京王線調布駅のほぼ中間にある345床の精神科専門病院です。

開設時は76床からのスタートでしたが、職員も患者さんとできるだけ一緒の時を過ごし、家族的な雰囲気の中で信頼関係を築く努力をしていたようです。最初は個人病院としてスタートしましたが、経営基盤安定化のために昭和35年に「医療法人社団欣助会」を設立し法人化しました。また、昭和39年12月に精神科作業療法を開始し、翌昭和40年には患者家族会を結成するなど、他の病院に先駆けて患者さん本位の医療の提供と社会復帰活動を展開してきました。平成13年10月にはより一層の病院機能の向上のために日本医療機能評価を受審し、12月には認定を受け、平成18年に更新をしました。

当院の病床数345床はすべて精神科一般病床です。診療圏は調布市、三鷹市、多摩地区のほか、隣接する区部や他県（神奈川県など）も入ります。平成20年

度の年間入院患者数は596名、退院患者数599名、外来患者数は1日平均約110名です。当院における入院の特徴は、紹介率の高いことです。入院の内訳は紹介が61%、外来からが29%、措置入院が7%です。紹介元は近隣にある大学病院と、50軒以上のクリニックが中心で60%以上に達します。逆に当院は精神科単科ということで、身体合併症を診る機能を持っていません。そういう意味でも周辺の病院や診療所との病連携、あるいは病診連携は非常に重要となっています。

当院の基本理念は

「患者様やご家族の側に立った医療」

「患者様の社会復帰を目指す医療」

「全職員相互の力を発揮できる医療」

の3つです。

基本理念の実践として、8名のPSW(精神保健福祉士)を病棟、デイケアなど各セクションに配置して、患者さんやご家族の相談にのるなどきめ細やかな対応を行っています。また、患者さんの社会復帰にご家族の協力は不可欠ですから、家族支援には力を入れています。

当院の家族会は先に述べたように、昭和40年に立ち上げました。当時の精神科病院界では家族会などつくれば病院が家族から突き上げられるのでは、という懸念がありましたから民間の精神科病院としては画期的なことでした。毎月第3土曜日に開かれる家族会では講師として当院から医師や薬剤師を派遣し、「引きこもり」や「非定型抗精神病薬」などのテーマで1時間講演をしています。その後1時間、ご家族でディスカッションを行って頂いています。

6年前からは家族教室も始めました。年3回一般にも公開しており、統合失調症圏で当院に入院された方のご家族には、必ず案内のハガキを出し参加を促しています。ご家族が病気を理解し、患者さんへの対応方法を知っていただくのが目的であり、医師、薬剤師、PSWが各1時間ずつ統合失調症について話をしています。

また、家族心理教育「ファミリーサポート・セミナー」も6年前から始めました。ファミリーサポート・セミナーはご家族が肩の力を抜き、生き生きと暮らしていけることが目的です。病気の理解が浅いご家族や心理的負担の大きなご家族を選び、6～8名のグループを3グループほど作り、グループごとに毎月1回、計8回の講義とグループワークを行っています。ご家族からの評判はとてよく、「対処の仕方がわからず不安だったが、少しずつ理解できた」「他の家族と話しができて、気持ちがほぐれた」などの感想を頂いています。

社会復帰に向けた支援活動は入院時より始まります。入院予定者が外来診察を受ける際は、病棟の看護師やPSWも立会い、入院してからの患者さんやご家族がコミュニケーションをとりやすい体制づくりのためのチーム医療を実践しています。また入院中は作業療法、デイケア、生活技能訓練（SST）など社会復帰に向けたリハビリテーションを行っています。

作業療法では、OT（作業療法士）10名を含む社会療法部のスタッフが、個別の作業療法に力を入れるとともに、院外での活動を重視しています。これは退院後に地域で不応を起さず生活できるようにすることと、入院生活のQOLの2点を意識しているからです。プログラムは月曜日から土曜日までのメニュー（個人作業療法、外食、散歩、パソコン、料理教室など）のほかに夜間の映画鑑賞や日曜日の喫茶、ときには大晦日の紅白歌合戦鑑賞や正月の初詣と豊富です。

デイケア（大規模）は実行委員会方式をとっており、患者さんたち自身が運営しています。患者さんたちが実行委員として「次に何をしようか」と計画し、実施しているのです。それにより実行力がつきますし、各自の能力を引き出すことができます。もちろんスタッフはそれを支えるため、すべてのデイケア利用者に毎週面接し、個人的な課題や達成状況の確認など細かくチェックし指導しています。

社会復帰に欠かせない生活技能訓練（SST）には、共通課題方式、服薬教室、退院準備グループ、チャレンジグループという4つのグループがあり、かかわるスタッフも看護師、OT、PSWなど多職種です。特にチャレンジグループは実践的で、ゴミの分別や出し方を習う際には、自治体によって異なることから、生活現場となる地区のグループホームまでスタッ



四季折々いろいろな花を植えています



院庭でのレクリエーション



くつろぎの場



外来待合室

地域連携では、近くに通所施設・グループホームが10数ヶ所あり、当院と密接に連絡を取り合っているため、再入院率は低く抑えられています。

基本理念の一つである全職員相互の力を発揮するため、多職種によるカンファレンスを積極的に行い、時には患者さんやご家族にも参加して頂いています。また、スタッフ教育に関しては研修委員会を設置し、年間スケジュールを決めて定期的に勉強会を行っており、今後さらに高いパフォーマンスを目指しています。

最後に、当院の入院患者さんの86%は統合失調症の患者さんで、新規に入院される患者さんの60%も統合失調症の方です。今後とも急性期から社会復帰に至るまで、総合的に統合失調症を治療できる専門病院として頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。